

3

野田さんの学級では、斎藤隆介さいとうりゅうすけさんが書いた物語のおもしろさについて、友達としようかいし合うことにしました。野田さんは、「ソメコとオニ」という物語を選んで読みました。次の【ソメコとオニ】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【ソメコとオニ】

(斎藤隆介「ソメコとオニ」による。)



(平成四年度版 教育出版 国語 三年下 斎藤隆介 「ソメコとオニ」による。)

一 野田さんは、作品のおもしろさを見つけるために、物語を読み返しています。次の問いに答えましょう。

(1) 野田さんは、——部Aの文の意味をたしかめています。この文の、①主語と②じゅつ語にあたる言葉を、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

(2) 野田さんは、——部B「はりきっていた」という言葉から、そのときのソメコの気持ちを想ぞうしました。その気持ちの説明として最もふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 おとう、おつかあとはなれたことが不安で、きんちようしている。
- 2 おとう、おつかあとはなれたことがうれしくて、元気があふれている。
- 3 おじさんと二人で遊ぶことが不安で、きんちようしている。
- 4 おじさんと二人で遊ぶことが楽しみで、元気があふれている。

二 野田さんは、「ソメコとオニ」を選んで読んだ友達と、作品のおもしろさについて話し合っています。次の【話合いの様子の一部】を読んで、あとの問いに答えましよう。

【話合いの様子の一部】

田中 わたしは、ソメコのせいかくがおもしろいと思ったよ。ソメコはとにかく遊ぶのが好きだよね。

松本 そうだね。オニをずっと遊びにさそっていたよね。

高橋 物語のはじめに、「ソメコは毎日たくくつしていた。」とあるけど、1の場面を読むと、ソメコと遊んでくれる人がだれもいなかったことが分かるよ。だから、ソメコはだれでもいいから遊びたかったんじゃないかな。



野田 わたしは、ソメコはかわいいもの知らずな人だと思ったよ。

田中 野田さんは、どこからそう思ったの。

野田 特に、「ア」
「ア」
「ア」というところからそう思ったよ。ソメコは、おじさんの正体がオニだとわかってても、なきもせず、遊びにさそっていったからね。

田中 ソメコは、かわいいもの知らずで、とにかく遊びが好きな人ということかな。

高橋 ぼくは、オニの気持ちが大きく変わるところもおもしろいと思うな。

松本 そうだね。オニははじめ、ソメコをさらって、ソメコのおとうから金のたわらをもらおうと思っていたんだよね。けれど、
「イ」
「イ」
「イ」、最後は、金のたわらをやるかわりにソメコをつれて帰ってくれと、ソメコのおとうにお願いするようになるよね。

野田 オニは、まさか作せんがしっぱいするなんて、思っていなかっただろうね。

（話し合いが続く）

(1) 「ア」に入る文として最もふさわしいものを、【ソメコとオニ】の中の……部①から④までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

(2) 「イ」には、オニの気持ちが大きく変わった理由が入ります。その説明として最もふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 ソメコのおとうが金のたわらを馬につんで岩屋の前にとどけたから
- 2 ソメコがいなくなつて、ソメコのおとうが、大さわぎしてさがしていたから
- 3 ソメコの遊びの相手をさせられて、オニが夜もねられなくなったから
- 4 ソメコと遊ぶことが楽しくて、オニはそのお礼がしたかったから